

研究課題名 異文化圏に在留する日本人選手・指導者に必要な人的ネットワークの機能解明

研究代表者 高井 秀明

異文化圏に在留するサッカーの日本人選手・指導者に対して遠隔心理支援を継続的に実施したところ、彼らは異文化圏でサッカーやそれ以外の日常生活に必要な情報交換とアドバイスを長期間にわたって継続的に在留する同職者から適宜受けられる環境を欲していることが示された(Takai, 2014)。よって、異文化圏では在留する日本人選手・指導者が連携できる人的ネットワークの構築を検討することが望まれる。そこで、本研究の目的は、日本人サッカー選手・指導者における異文化適応に必要な人的ネットワークの機能について検討することである。

研究参加者は、ヨーロッパのドイツ・オランダでサッカーチームに所属してプロ契約を交わしている日本人選手・指導者の男性 9 名であった。研究参加者のインタビューにより言語情報のデータが収集された。本研究では、個別性の高い広範囲な回答を得られることが重要であり、インタビューには 1 対 1 の半構造的 (semi-structured)、深層的 (in-depth)、自由回答的 (open-ended) インタビューを採用した。インタビューによって得られた言語情報のデータの分析には、Glaser & Strauss(1967) の質的分析の手法である Grounded Theory Approach (GTA) を利用した。

その結果、異文化圏の日本人選手・指導者は、サッカー環境・状況に関する「情報の共有化」や日本とヨーロッパのサッカー選手・指導者の「人材交流」、さらにはサッカー先進国で必要な運動スキルの獲得を目指したアプローチについて検討する「強化プログラムの交流」を欲していることが明らかとなった。つまり、日本人選手・指導者がサッカー先進国で活躍するためには、上記の 3 つの内容を考慮した人的ネットワークを構築することが求められる。ただし、この人的ネットワークは、日本人のみで構成するのではなく、日本人の特長を活かすうえでも、異文化圏の選手・指導者を含める必要性があるだろう。